

News Letter

自治医科大学附属病院 卒後臨床研修センター

令和
3年
4月

うららかな春の訪れとなりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか？さっそく Newsletter 第37回配信です！ どうぞお楽しみください。

〈 診療科紹介 麻酔科〉

皆さんこんにちは。

今回は自治医科大学麻酔科を紹介します。

自治医科大学附属病院では麻酔管理症例約 7,000 件を含む年間約 10,000 件の手術を行っています。指導医 12 人、専門医 14 人、認定医 7 人、専攻医 4 人、さらに初期研修医 5~10 人で日々、患者さんにとっても医療従事者にとっても、安全で快適な周術期管理を行っています。

上級医の数が確保されているため、毎日マンツーマンの指導で綿密な周術期管理の研修を受けることができます。麻酔科では将来、必ず出会う急変時（意識レベルの低下、呼吸停止、血圧・脈拍の低下）への対応を毎日繰り返し経験し、治療することができます。ぜひ積極的に研修してください。

当院では 1 次から 3 次救急まで受け入れ、急性虫垂炎などの common な疾患から多発外傷・重症熱傷までの手術を行います。とちぎ子ども医療センターが併設されているため小児についても鼠経ヘルニアなどから合併症に注意が必要な症例や小児先天性心疾患の周術期管理まで経験することができます。麻酔科専門医に必要な症例、胸部外科・心臓血管外科・6 歳未満の小児・帝王切開・脳神経外科も単施設でおつりがくるほどの症例があります。ペインクリニック外来やエコーガイド下の末梢神経ブロック・透視下の深部神経のブロックなども専門的な研修が可能です。研修医教育、ペインクリニック、集中治療、小児麻酔、心臓血管麻酔、産科麻酔など麻酔科領域の各専門分野を学ぶことができます。週 3 回行っている朝の 15 分のミニレクチャーは指導医から専攻医 1 年目までが行い、知識の整理や発表の練習にとっても良い機会です。

初期研修の経験値としても、専門医までの経験値としても申し分ない研修環境です。ぜひ、見学や研修で上質な周術期管理を肌で感じてください。

麻酔科 原 鉄人



写真① 竹内 護 主任教授
カンファレンス風景



写真② 鈴木 昭広 病院教授
YouTube などに多数の
手技動画があります



写真③ 中心静脈カテーテル挿入中



写真④ 新手術室での記念撮影

【医師国家試験予想問題】

問題①

日本麻酔科学会が推奨する「安全な麻酔のためのモニター指針」で、全身麻酔中に必ずモニタリングすべき項目ではないものは以下のうちどれか

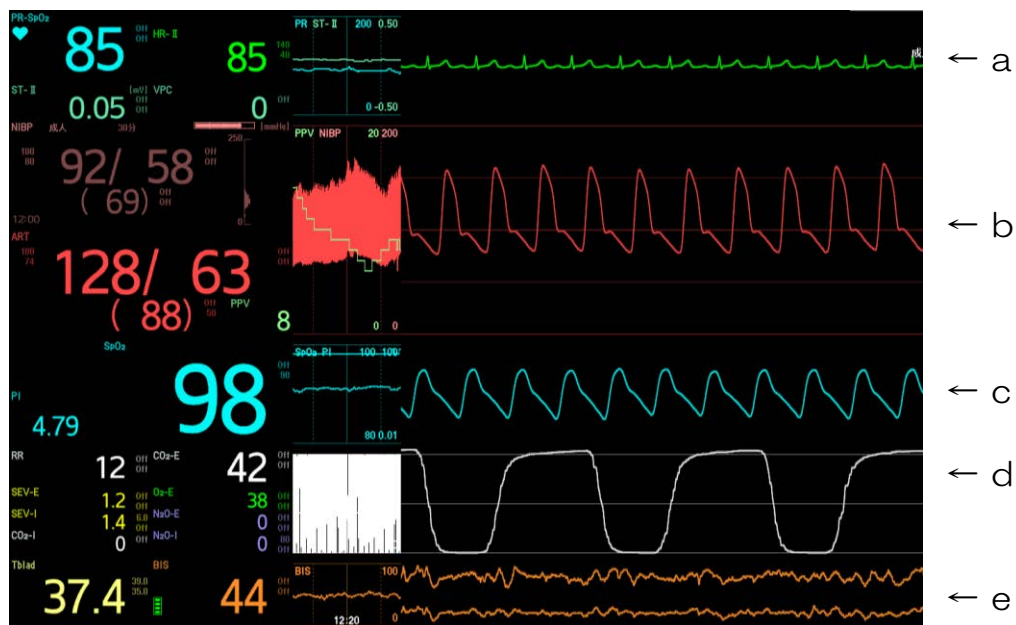
- a. カプノメーター
- b. パルスオキシメーター
- c. 脳波モニター
- d. 血圧
- e. 体温

正解 c

脳波モニターは必ずしもモニタリングすべきものではなく、その他の項目と比較し優先順位は低い。脳波モニターは全身麻酔中の麻酔深度を測定できる。カプノメーターは吸気や呼気の酸素濃度、二酸化炭素濃度、麻酔薬の濃度を測定できる。パルスオキシメーターは経皮的動脈血酸素飽和度を測定し酸素化のチェックを行う。血圧を測定することで循環のチェックを行う。体温を測定し、低体温や高体温を予防する。

問題②

以下の図は、気管挿管された患者が全身麻酔下に手術を受けている最中のモニタリングの画面である。表示されている波形のうち、二酸化炭素分圧を測定しているものはどれか。



正解 d

a は心電図、b は観血的動脈圧、c は経皮的動脈血酸素飽和度、d は二酸化炭素分圧、e は脳波をそれぞれモニタリングしている。

麻酔科 平岡 希生